

# 令和4年度第1回釜利谷協議会議事録（7月26日開催）

【出席者】（委員）	小林正稔	しらかばこども家庭支援ステーション	副所長
	佐々木悦子	桜美林大学	入学部アドバイザー
	村上博史	横浜市立金沢中学校	校長
	小國 徹	横浜市立金沢動物園	園長
	平野龍雄	釜利谷連合町内会	自治会長
	伊久美純一	釜利谷高校PTA	会長
	岡本裕子		校長
（事務局）	副校長	小林隆宏	
	教頭	角本賢一	
	総括教諭	小曲昭男（学校評価部会）	穂積啓之（SSE部会・SLS部会）
		吉田真穂（学力向上部会）	矢島俊也（キャリア部会）
		近藤純子（地域協働部会）	

## 1 校長あいさつ

- ・ご多忙の中、本日このようにお集まりいただき感謝している。コロナ禍からは脱しきれていないが、対面で令和4年度1回目の開催をさせていただく。本年度より横浜市立金沢中学校の村上博史校長に本協議会委員に加わっていただいた。委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りたい。

## 2 釜利谷運営協議会委員及び会長、副会長の選出

会長：小林正稔 副会長：岡本裕子

## 3 協議

### (1) 令和3年度釜利谷高等学校の学校運営について報告

- ・釜利谷高等学校のスクールミッション・スクールポリシー  
資料参照
- ・令和3年度学校評価報告・令和4年度学校目標について  
資料参照
- ・各運営部会より報告  
資料参照

### (2) 各委員より意見・感想

佐々木委員：いつもながら詳細まで丁寧な資料を作成いただき感謝する。ここでは、朝食の喫食率に触れたい。自分のからだを大切にするという視点からも朝食をしっかり摂ってから登校するように伝えていただきたい。

部活動への加入率も気になる。活性化の方策のひとつとして、例えばバドミントンにも卓球にも親しむことのできる合同部活動という考え方もある。今はダンスやフィットネスが人気なので、そのような部活を立ち上げるのもひとつの方法である。

小國委員：遅刻指導の内容について伺う。どのような形式でどのような内容のことをおこなっているのか。

穂積総括教諭：高校卒業後の社会接続を考えたとき決められた時刻を意識して登校することは大切なことととらえている。特に遅刻が習慣化している生徒に対しては課題を課すこともあり、しっかりと指導を続けていきたい。

小林委員：個人の身体的特徴を理解させれば、できないことを理解させることができるのではないか。小さい頃から視力が悪い、それが原因で学習ができないかもしれないのに、本人は理解できているのか。

例えば折り紙に使う紙が正方形でないことがわかっていれば、きれいに折れないことに自信を無くさない。大人がかかわっていくなかで生徒に気づきを与えてほしい。例えば学習面においては「できなかった」のではなく「学び方を知らなかった」といったように。

教員は人として本当に大事なことを生徒に伝えてほしい。生徒たちともっと会話をして生徒の良さを引き出してもらいたい。

村上委員：生徒を送る側として一人ひとりに丁寧に対応いただき感謝する。釜利谷高校の変化を最初から見ているが、中学生が持つ印象が変わってきている。特に学び直しの取り組みが丁寧で、個別支援の生徒が多い中で、ありがたい。できることを見ていくことが大切で、そうすれば生徒のできることが増えてくる。釜利谷高校を受験すると決めた生徒は面接のための練習を始める。その目的意識がはっきりしたときに生徒が変わり、伸びる場面を見てきている。少しずつでもいいので、目標を示し、できるようになったことを先生方が認めてあげてほしい。

平野委員：地域の代表として参加させていただいている。地域清掃への取組みに感謝する。地域の他の集まりに参加したとき、喫煙を含め禁止薬物との距離が一気に縮まるのは小学校高学年から中学校と聞いている。高校でも講演会等が行われていることを地域に戻り伝えたい。また、今の子はあまり挨拶ができない。社会に出てからとても大切なことである。

伊久美委員：携帯電話の使用時間に関する資料を見ると、睡眠時間や学校生活を送っている時間を勘案すると一日は24時間では足りない気がする。家庭だけが注意しても、友達がやっているなので、家庭と学校が協力して時間の使い方に関してもメッセージを送っていききたい。

#### 4 事務局から

##### (1) 今後の日程

次回の釜利谷協議会 11月18日（金）午後（授業改善研修会をご覧ください）

閉会